

XP-002413300

(C) WPI / Thomson

AN - 2000-407078 [35]
AP - JP19980312392 19981102; TW19990118958 19991101; [Previous Publ
JP2000143478 A 00000000]
PR - JP19980312392 19981102; JP19980312390 19981102; JP19980312391 19981102
TI - Cosmetics for skin contain alkali for neutralizing carboxy vinyl
polymer, carrageenan and electrolyte
IW - COSMETIC SKIN CONTAIN ALKALI NEUTRALISE CARBOXY VINYL POLYMER
CARRAGEENAN ELECTROLYTIC
IN - NAGASAWA M; SANO T
PA - (KAOS) KAO CORP
PN - JP2000143478 A 20000523 DW200035
TW513316 A 20021211 DW200353
JP3484361B2 B2 20040106 DW200405
PD - 2000-05-23
) IC - A61K7/48; A61K7/00
DC - A14 A96 D21
AB - NOVELTY :
The cosmetics contain alkali for neutralizing carboxy vinyl polymer,
carrageenan and electrolyte.
- USE :
For skin.
- ADVANTAGE :
The cosmetics is excellent in preservation and time dependent
stability. When applied with finger, the cosmetics gives a smooth and
clean feel. Viscosity of the cosmetics is maintained.

THIS PAGE LEFT BLANK

(19) 日本国特許庁 (J P)

(12) 公開特許公報 (A)

(11) 特許出願公開番号

特開2000-143478

(P2000-143478A)

(43) 公開日 平成12年5月23日 (2000.5.23)

| (51) Int.Cl. ⁷ | 識別記号 | F I | テマコード (参考) |
|---------------------------|------|--------------|------------|
| A 6 1 K 7/48 | | A 6 1 K 7/48 | 4 C 0 8 3 |
| 7/00 | | 7/00 | J |
| | | | R |

審査請求 未請求 請求項の数 2 O L (全 5 頁)

(21) 出願番号 特願平10-312392

(22) 出願日 平成10年11月2日 (1998.11.2)

(71) 出願人 000000918

花王株式会社

東京都中央区日本橋茅場町1丁目14番10号

(72) 発明者 長澤 真木

東京都墨田区文花2-1-3 花王株式会社
社研究所内

(72) 発明者 佐野 友彦

東京都墨田区文花2-1-3 花王株式会
社研究所内

(74) 代理人 100068700

弁理士 有賀 三幸 (外4名)

最終頁に続く

(54) 【発明の名称】 皮膚化粧料

(57) 【要約】

【解決手段】 (A) カルボキシビニルポリマー及びカ
ラギーナン、(B) 成分(A)を中和するための塩基性
物質、並びに(C)電解質を含有する皮膚化粧料。

【効果】 電解質を含有していても、保形性及び経時安
定性に優れ、指どれが良く、さっぱりした使用感を有す
る。

【特許請求の範囲】

【請求項1】 次の成分(A)、(B)及び(C)：

(A) カルボキシビニルポリマー及びカラギーナン、
(B) 成分(A)を中和するための塩基性物質、(C)
電解質を含有する皮膚化粧料。

【請求項2】 成分(A)のカラギーナンが、 κ -カラ
ギーナンである請求項1記載の皮膚化粧料。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の属する技術分野】本発明は、電解質を含有して
いても、保形性及び経時安定性に優れ、指どれが良いゲ
ル状の皮膚化粧料に関する。

【0002】

【従来の技術】化粧料の粘度を調整するために、種々の
増粘剤高分子が使用されているが、そのうち、カルボキ
シビニルポリマーを用いて増粘させたゲル状の化粧料
は、さっぱりした使用感を有し、広く用いられている。
しかし、このような化粧料に電解質を配合すると、系の
粘度低下が起こり、ゲルを形成しなくなるという問題が
あった。一方、カラギーナンは、電解質の存在下でも粘
度を維持するという点では優れているが、極めて固いゲ
ルを形成し、指どれが悪く、また経時的に離水を起こす
などの問題があった。

【0003】

【発明が解決しようとする課題】本発明の目的は、電解
質を含有していても、保形性及び経時安定性に優れ、指
どれが良い皮膚化粧料を提供することにある。

【0004】

【課題を解決するための手段】本発明者らは、カルボキ
シビニルポリマーとカラギーナンを組合わせて増粘させ
れば、電解質を含有していても、保形性及び経時安定性
に優れ、指どれが良く、さっぱりした使用感のゲル状の
皮膚化粧料が得られることを見出した。

【0005】すなわち、本発明は、次の成分(A)、
(B)及び(C)：

(A) カルボキシビニルポリマー及びカラギーナン、
(B) 成分(A)を中和するための塩基性物質、(C)
電解質を含有する皮膚化粧料を提供するものである。

【0006】

【発明の実施の形態】本発明で用いる成分(A)のう
ち、カルボキシビニルポリマーとしては、例えばカーボ
ボール910、934、940、941、980、98
1、1382、ETD2020(以上、B.F.グッド
リッチ社製)、ハイビスワコー104、105(以上、
和光純薬社製)等の市販品を好適に使用できる。カルボ
キシビニルポリマーは、全組成中に0.1～3重量%、
特に0.1～2.5重量%、更に0.1～2重量%配合
するのが、カルボキシビニルポリマー独特のさっぱりし
た使用感が得られるので好ましい。

【0007】また、カラギーナンとしては、 ι 、 λ 、 κ

型のいずれでも使用できるが、特に κ -カラギーナンが
好ましい。カラギーナンは、全組成中に0.01～3重
量%、特に0.05～2.5重量%、更に0.05～2
重量%配合するのが、かたすぎないゲルを形成させる上
で好ましい。

【0008】また、カルボキシビニルポリマーとカラギ
ーナンの配合比(重量比)は、20:1～1:15、特
に10:1～1:10が好ましい。

【0009】本発明においては、更に成分(A)以外の
水溶性高分子を配合できる。かかる水溶性高分子として
は、成分(A)と共に沈殿を起こさないよう、カチオン
性以外のものが好ましく、具体的には、キサンタンガ
ム、カルボキシメチルセルロース、メチルセルロース、
ヒドロキシセルロース、ヒドロキシプロピルセルロー
ス、ヒドロキシプロピルメチルセルロース、ローカスト
ビーンガム、ヒアルロン酸ナトリウム、寒天、カルボキ
シメチルキチン、ポリビニルアルコール、ポリビニルピ
ロリドン、特開平9-235301号に記載のスルホン
化多糖類、特開昭64-10997号に記載の酸性多糖
類、アラビアガム、グアーガム、トラガントガム、澱
粉、デキストリン、アルギン酸、アルギン酸塩、ペクチ
ン、デキストラン、プルラン、ゼラチン、キチン、ポリ
アクリル酸、コラーゲン、エチルセルロース、ヒドロキ
シエチルセルロース、マンナン、ガラクトン、クインス
シード、カゼイン、アルブミン、ポリビニルメチルエー
テル、カルボキシメチルデンブレン、メチルデンブレン、ア
ルギン酸プロピレングリコール、サクシノグルカン、カ
ードラン等が挙げられる。

【0010】これらの水溶性高分子は1種以上を用いる
ことができ、全組成中に0～3重量%、特に0～2.5
重量%、更に0～2重量%配合するのが好ましい。

【0011】本発明で用いる成分(B)の塩基性物質
は、成分(A)を中和するのに用いられ、例えばアンモ
ニア、4級アンモニウム塩、アルカノールアミン等のア
ミン類；アルギニン等の塩基性アミノ酸；水酸化ナトリ
ウム、水酸化カリウム等が挙げられる。特に水酸化カリ
ウムを用いるのが、安定なゲルを与えるので好ましい。
これらの塩基性物質は1種以上を用いることができ、成
分(A)を中和する量が配合されるのが好ましい。ま
た、系のpHが4.5～8、特にpH4.8～7となる量で
あるのが好ましい。

【0012】成分(C)の電解質としては、成分(B)
以外のもので、例えばアミノ酸又はアミノ酸誘導体及び
それらの塩、特開平8-92054号に記載のグアニジ
ン誘導体及びその酸付加塩、亜硫酸塩、亜硫酸水素塩、
ピロ亜硫酸塩、チオ硫酸塩、エデト酸及びその塩、N-
アシルアミノ酸及びその塩、塩化ナトリウム、塩化カリ
ウム、アニオン性界面活性剤、安息香酸及びその塩、エ
リソルビン酸及びその塩、 ϵ -アミノカプロン酸、核酸
及びその塩、グリチルリチン酸及びその塩、グリチルレ

チン酸及びその塩、サリチル酸及びその塩、タンニン酸及びその塩、デヒドロ酢酸及びその塩、トラネキサム酸及びその塩、パラフェノールスルホン酸亜鉛、ヒドロキシ酸及びその塩、ピロリン酸及びその塩、ピペリン酸及びその塩、ピロリドンカルボン酸及びその塩、ベンゼンスルホン酸又はベンゼンスルホン酸誘導体及びそれらの塩、ベタイン類、ベンザルコニウム塩酸塩、没食子酸及びその塩、リン酸及びその塩、メタリン酸及びその塩等が挙げられる。

【0013】成分(C)の電解質は、1種以上を用いることができ、全組成中に0.001～15重量%、特に0.001～13重量%、更に0.001～10重量%配合するのが好ましい。また、成分(C)と成分(A)の配合比(重量比)は、(C):(A)=0.05:10～10:1、特に0.1:10～10:1が好ましい。

【0014】更に、本発明の皮膚化粧料には、前記成分のほか、通常の化粧料に用いられる成分、例えば保湿剤、界面活性剤、ワックス類、シリコーン類、ステロール類、粉体、低級アルコール、抗炎症剤、一重項酸素消去剤又は抗酸化剤、被膜形成剤、pH調整剤、粘度調整

剤、キレート剤、防腐剤、色素、美白成分、細胞賦活剤、紫外線吸収剤、尿素、ビタミン類、皮脂抑制剤、皮脂分泌促進剤、薬効成分、香料等を適宜配合できる。

【0015】本発明の皮膚化粧料は、常法に従って製造でき、ゲル状として得られる。その25℃における粘度(B型粘度計)は、7000～200000mPa・s、特に10000～150000mPa・sが好ましい。

【0016】

【発明の効果】本発明の皮膚化粧料は、保形性及び経時安定性に優れ、指どれが良く、しかもさっぱりした使用感で、使用感も良好である。

【0017】

【実施例】実施例1(フェイスケアジェル)

表2に示す組成のフェイスケアジェルを常法により製造した。これらを容器に充填し、保形性、経時安定性(15日後の保形性)及び指どれを表1に示す基準で評価した。経時安定性は15日後の状態を評価した。結果を表2に併せて示す。なお、本発明品1の粘度は50000mPa・s、pHは5.8であった。

【0018】

【表1】

(評価基準)

| | 保 形 性 | 経時安定性 (15日後) | 指 ど れ |
|---|------------------|-----------------|----------------|
| ○ | 容器を傾けても30秒間垂れない | 同 左 | 指にジェル状態で取れる |
| △ | 容器を傾けると30秒以内に垂れる | 同 左 | 指ですくい取れるが流れやすい |
| × | 容器を傾けると直ちに流れ出す | 同 左 | とれない(液状もしくは固化) |

【0019】

【表2】

| 成分 (重量%) | 本発明品 | 比較品 | | |
|---|------|------|-----------------|------|
| | 1 | 1 | 2 | 3 |
| カルボキシビニルポリマー (カーボボール940、 B. F. グッドリッチ社製) | 1.00 | 1.00 | — | — |
| ヘーカラギーナン (ソアギーナMV101、 MRCポリサッカライド社製) | 0.30 | — | 0.30 | — |
| キサンタンガム | — | — | — | 1.00 |
| 水酸化カリウム | 0.40 | 0.40 | 0.40 | 0.40 |
| グアニジン誘導体のコハク酸塩 (特開平8-92054号 の実施例1に記載のもの) | 3.00 | 3.00 | 3.00 | 3.00 |
| エデト酸2ナトリウム | 0.10 | 0.10 | 0.10 | 0.10 |
| リン酸1水素2ナトリウム | 0.40 | 0.40 | 0.40 | 0.40 |
| クエン酸 | 0.20 | 0.20 | 0.20 | 0.20 |
| グリセリン | 5.00 | 5.00 | 5.00 | 5.00 |
| 1, 3-ブチレングリコール | 5.00 | 5.00 | 5.00 | 5.00 |
| ジメチルポリシロキサン (6mm ² /s) | 4.00 | 4.00 | 4.00 | 4.00 |
| ポリオキシエチレン(20)イソセチルエーテル | 1.00 | 1.00 | 1.00 | 1.00 |
| エタノール | 5.00 | 5.00 | 5.00 | 5.00 |
| 防腐剤 | 0.20 | 0.20 | 0.20 | 0.20 |
| 香料 | 微量 | 微量 | 微量 | 微量 |
| 精製水 | 残部 | 残部 | 残部 | 残部 |
| 保形性 | ○ | × | ○ ¹⁾ | △ |
| 経時安定性 (15日後の保形性) | ○ | × | × | △ |
| 指どれのよさ | ○ | △ | × | △ |

1) 固化状態
2) 離水が起こる

【0020】実施例2 (ボディケアジェル)

以下に示す組成のボディケアジェルを常法により製造し

た。

【表3】

(成分)

(重量%)

| | |
|--|------|
| カルボキシビニルポリマー (カーボボール980、B.F.グッドリッチ社製) | 0.8 |
| ヘーカラギーナン (ソアギーナMV101、MRCポリサッカライド社製) | 0.2 |
| コハク酸 | 0.5 |
| 塩酸リジン | 1.0 |
| 水酸化カリウム | 0.35 |
| 酸性多糖類 (特開平1-213213号の実施例2に記載のもの) | 0.1 |
| ヒアルロン酸ナトリウム | 0.1 |
| 1, 3-ブチレングリコール | 5.0 |
| グリセリン | 10.0 |
| ポリエチレングリコール | 5.0 |
| スクワラン | 1.0 |
| アミド誘導体 (特開平10-87422号の実施例1に記載のもの) | 1.0 |
| ポリオキシエチレン(20)イソセチルエーテル | 1.0 |
| 防腐剤 | 0.2 |
| 精製水 | 残部 |

【0021】実施例3 (拭き取り用パック)

以下に示す組成の拭き取り用パックを常法により製造し

た。

【表4】

(成分)

(重量%)

| | |
|--------------------------|------|
| カルボキシビニルポリマー (カーボボール940) | 0.8 |
| ヘーカラギーナン (ソアギーナMV101) | 0.3 |
| ピロリドンカルボン酸ナトリウム | 0.5 |
| クエン酸3ナトリウム | 0.5 |
| 水酸化カリウム | 0.35 |
| カルボキシメチルセルロース | 0.1 |
| コラーゲン | 0.1 |

| | |
|--|-------|
| グリセリン | 10.0 |
| ポリオキシエチレンメチルグルコシド | 5.0 |
| 架橋型メチルポリシロキサン | 1.0 |
| ポリオキシエチレン・メチルポリシロキサン共重合体 (SH3775M、東レ・ダウコーニング社製) | 0.5 |
| テトラヒドロキシベンゾフェノン | 0.1 |
| 黄色4号 | 0.003 |
| 防腐剤 | 0.2 |
| 精製水 | 残部 |

【0022】実施例4（マッサージジェル）
以下に示す組成のマッサージジェルを常法により製造し

た。
【表5】

| (成分) | (重量%) |
|--|-------|
| カルボキシビニルポリマー (カーボボール981、B.F.グッドリッチ社製) | 0.60 |
| ハ-カラギーナン（ソアギーナMV101） | 0.20 |
| グアニジン誘導体のコハク酸塩（特開平8-92054号の実施例 1に記載のもの） | 1.00 |
| コハク酸 | 1.00 |
| 酸性多糖類（特開平1-213213号の実施例2に記載のもの） | 0.20 |
| グリセリン | 30.00 |
| 水酸化カリウム | 0.25 |
| メチルポリシロキサン | 2.00 |
| 防腐剤 | 0.20 |
| 精製水 | 残部 |

【0023】実施例2～4で得られた皮膚化粧料はいずれも、保形性及び経時安定性に優れ、指どれが良く、さっぱりした使用感を有するものであった。

フロントページの続き

Fターム(参考) 4C083 AB032 AB282 AC022 AC102
AC122 AC182 AC212 AC292
AC302 AC532 AC582 AC612
AC642 AC742 AC852 AD042
AD091 AD092 AD152 AD162
AD212 AD332 AD351 AD352
AD391 AD432 CC02 CC07
CC23 DD41 EE01 EE06 EE07

THIS PAGE LEFT BLANK